



開館20周年記念・平成30年度秋季企画展

少人華見

南画を極めた文人画家

hitomi
shoka

2018年
9月8日[土] 
10月21日[日]

開館時間＝9:00～17:00 (入館受付は16:30まで)

休館日＝毎週月曜日(9/17・24、10/8は開館)、9/18・25、10/9

入館料＝大人300円／学生(高校生以上)200円／小人100円

※幼児および南丹市内在住・在校の小・中学生は無料 ※20名以上の団体は2割引

※身体障がい者手帳・療育手帳・精神障がい者保健福祉手帳・戦傷病者手帳を持つ方とその介護者は半額

南丹市立文化博物館

〒622-0004 京都府南丹市園部町小桜町63番地 / TEL: 0771(68) 0081 FAX: 0771(63) 2983

関連事業「ギャラリートーク」

①日時：9月16日(日) 13:30～15:00

講師：今西進齊氏(全国水墨画美術協会 無鑑査)

②日時：10月6日(土) 13:30～15:00

講師：小島堯氏(日本南画院 理事)

会場は南丹市立文化博物館

参加費無料(ただし入館料が必要)

※9月16日(日)は席上揮毫を予定しています



人見少華展

～南画を極めた文人画家～

本年は、人見少華没後50年という節目の年にあたります。当館では過去に二度、少華のまとまった作品展を開催させていただいておりましたが、作品の悉皆的な調査まで及びませんでした。しかしながら、本年、当館が開館20周年を迎えるということもあり、可能な範囲で少華作品の所在調査を行い、本展を開催する運びとなりました。



人見少華は、明治20年(1887)2月、船井郡富本村(現南丹市八木町)に生まれました。同38年9月には、京都市美術工芸学校に入学し、42年3月に卒業、京都市立絵画専門学校に進み、《八百屋のかど》で文展に初出品初入選しました。その後に出品した文展でも《日盛》《藤なみ》がそれぞれ入選しています。

しかし、少華は初期の文展に入選して以後、官の展覧会と絶縁したために、その作品が人々の目に触れる機会を少なくしてしまいました。しかし、少華が次の舞台とした南画院展に出品される作品は、識者の間では注目されていました。少華は名声を求める作家というよりも、自らが画を描いて楽しむ人であったように思われます。

これを示すように、少華の作品は南丹市域を中心に膨大な数が残されており、地元の方々の間で大切に保管されています。今回展覧した作品は一部にすぎませんが、今後の人見少華研究の一助になれば幸いです。



【交通案内】◆自動車…京都縦貫自動車道「園部IC」もしくは「八木西IC」より約5分。
◆電車・バス…JR 園部駅西口より京阪京都交通バス「八田線」もしくは「園篠線」に乗り、「交流会館前」下車す。または、市営ぐるんバスに乗り、「図書館前」下車す。徒歩の場合は園部駅から約30分。

南丹市立文化博物館

〒622-0004 京都府南丹市園部町小桜町63番地 / TEL: 0771(68) 0081 FAX: 0771(63) 2983



①



②



④



③



⑤



⑥

【掲載図版】<表面>「長夏繁英」(部分) 昭和5年 <裏面>①「秋塘子母鵝」昭和初期/②「四睡図」昭和20年代/③「老松雙鶴図」昭和14年/④「鉄心先生の図」昭和28年/⑤「朝顔」昭和8年/⑥「紅白梅図」昭和33年 ※すべて個人蔵